

美方高

中学生ら招き探究発表会

地域に感謝 成長できた



探究発表会で梨フェスの取り組みを発表する生徒
＝21日、若狭町のなびあす



美方高生の発表を聞く中学生ら

地域の中学生130人や保護者を招いて、美方高の第4回探究学習発表会「私たちの未来」が21日、美浜町の生涯学習センターなびあすで開催された。2年生と食物科3年生が35の課題学習を発表した。地元の特産振興を図った梨フェス開催の事例報告では「3年生の企画に1、2年生が加わって、活動を広げて完成させた点が好き」と講評されるなど、地域とのつながりといった活動成果や内容の紹介を通して、生徒

や中学生たちが学びや活動の意味を確認し合った。梨フェスは3年生2人が企画し8月に実施したいとしていたが8月は梨の収穫前で実施困難などと指摘され、1、2年生の生徒が加わる形で実行組織をつくり9月17日に変更して開催した。発表グループは地域の方の協力があって実現できた「地域のための活動は私たちの糧にもなる(など)三つの「収穫」を発表した。若狭町の松宮毅教育長は「最初の

提案時は梨のない時期の開催案で、企画書もない状態だったが、1、2年生が加わり開催時期を変更し、地域の支援も受けて企画を実現させた。そこが一番の成果。素晴らしい活動だった」と称賛した。J.R小浜線を使ったガチャ旅の発表では、美浜町の加藤浩教育長が「通勤通学などの普段使いではない、小浜線の非日常での利用拡大というアプローチがおもしろい」と講評した。ポスター発表では「アートで地域を

美方高の探究学習発表会に参加した福井大の浅原教授は「美方高で以前に講義した際に、生徒には探究学習を通して地域の中に自分たちの応援団をつくってほしいと話したが、協力や支援を受けられる関係をつくり探究を進めていると感じた。地域の理解があってこそだが、この関係を財産として継

しい」と話した。仁愛大の西出和彦教授は「指摘してくれる人が地域にいるという関係性はいい。指摘された企画の不備をさらに地域と協力して乗り越えていく取り組みは、地域課題探究の一つの成果」とした。「ポスター発表は用意した原稿を読むのではなく、いかに自分の言葉で話

周囲からの指摘 生徒の財産に

続して行ってほしい」と講評した。終了後には「先輩の取り組みの引き継ぎは、自分で課題探しをしないというデメリットもあるし、その取り組みを熟成させるというメリットもある」とし「ダメ出しを受けても粘り強く取り組む姿勢は将来の財産。次の段階として研究内容の分析的な評価につなげてほ

せるかななどにも挑戦してほしい」と期待した。北村徹校長は「イベントは実施して終わりではなく、そこから生徒が何を学び取ったか、どう成長したか。地域とのつながりを財産とし、生徒を高度化と自律化の指標で見していきたい」と話した。(菊野)

盛り上げる「ケガしない体作り」居場所づくりでヤングケアラーを救えるかなど各自の取り組みを担当チームが発表。陸上部の生徒が練習の負荷の大きさと睡眠の関係調べた発表では、因果関係はみられなかった」としたが睡眠の質は、その日の練習量だけでなく、睡眠前の習慣や睡眠環境にも左右されるので、研究としてはまだ課題が大きい」と説明した。

福井大の浅原雅浩教授は講評で「自分の探究のブラッシュアップには地域の人などさまざまな協力があったと思う。その経験を次に活かしてほしい」と話し、「発表では自分が実施した部分だけでなく、地域の人との関わりなど取り組みの全体像を示してくれたほうが分かりやすいし、次の年度へも引き継ぎが容易」とアドバイスした。(菊野昭彦)